

社会医療法人杏嶺会

一宮西病院 / 愛知県一宮市

法人理念である「街と人が明るく健康でいられますように」、職員の行動と意識の指針のうち「地域との密接な連携を大切にします」、「24時間365日、いつでもどんな怪我や病気も断らない」という基本方針のもと、この度地域のあらゆる医療ニーズに対応するため、既存施設に隣接する土地に増築し診療機能の拡張を図り、災害にも強い病院機能を確保するため強靱性向上に資する天然ガスコージェネレーションシステムの導入のみならず、その他のライフラインの増強（自家発電装置・飲料水の確保等も含めた大幅な機能の拡張）を実施しました。



外観

補助事業の概要

導入設備：停電対応型CGS 35kW×6台

補助金額：52,897千円(補助率1/2)

災害時の設備用途：【発電】 レストラン・イートインスペース系統のコンセント・照明・空調、厨房、トイレへ給電
※一時避難場所の避難者へ飲食物の提供、トイレ貸し出しのために厨房、トイレへ給電
【温水】 空調、給湯利用

対象施設	避難所面積	供給方式
避難場所	444㎡	中圧

事業者様の声

補助金を用いた設備導入の経緯と効果

社会医療法人杏嶺会 法人本部購買部 購買第一課 長谷川 英幸 様

新しく病院を建設する計画があり、その際に病院の防災レジリエンス向上のために停電対応型のCGSの導入を検討。検討する中でガス会社から補助金の紹介を受け、常時の電力デマンドカットに加え、停電時の電力供給を可能にできるCGSを補助金によりコストを抑えて導入できるのであればと補助金を活用することに至りました。

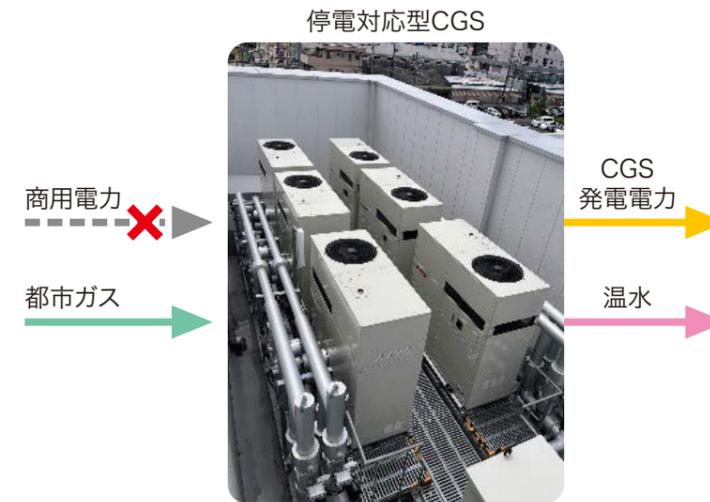
有事の際に病院としての機能維持を前提としながら近隣の住民の方に対して何か役に立てないかと考えていました。新病院の建設のタイミングで今回の補助金を活用し、地域の方の一時的な避難場所として場所を提供すること、空調や一部電気を使用できる場所を整えることで避難場所として地域の方に貢献ができると思い、行政に協定を提案しました。行政側も避難場所が増えることに好意的な印象で前向きに話を進めることができました。

既存の病院でもCGSはすでに導入していますが、停電対応型のCGSではないため、停電時は稼働が難しい状況にあります。昨今の災害事例を考えると、地震も多いですが、台風による風水害も多く発生していることから、電気の供給が止まってしまうリスクもあると考えています。そこで新病院建設の際には常用でも使用+停電時にも稼働し、電気の供給が可能な停電対応型CGSの導入は必要だと思いました。

都市ガス設備は、エネルギー多重化の1つを担う重要な設備であると認識しています。

災害時にも貢献する施設の役割とエネルギーシステム

停電時の設備活用イメージ



避難スペース(一例)

レストラン



イートインスペース



など

災害時にも避難所等で活用可能な設備等



空調



照明



コンセント



トイレ



給湯



物資提供

協定概要

一宮市とは「災害時における支援の提供に関する協定書」を締結(令和5年2月)。大地震や台風などの大規模な災害の発生時及び災害発生のおそれがある場合に、当該施設の一部を避難場所として利用することについて定めております。